

リハビリテーション医療における ソーシャルワーク

Role of the social worker in rehabilitation

近年、リハビリテーション医療の対象は多岐にわたっており、ソーシャルワークの重要性が増しています。限られた時間のなかで、患者を適切な医療資源につなげることができるかどうかは、その後の社会生活の予後にも影響を及ぼすことが予想されます。本特集では、さまざまな分野でソーシャルワークを実践されている各分野の専門家に、その現状と課題を解説していただきました。

リハビリテーション医療における急性期病院ソーシャルワークの

取り組み 寺田祥子氏 1161

医療ソーシャルワーカーの主たる業務は、相談・援助であり、患者やその家族の困っていることに対して、問題解決のお手伝いをする。一般に、退院調整や転院支援をすることが多く、その目的を達成するために地域連携や他機関病院との連携を行うことも多い。脳卒中の場合の連携支援や、救命救急センターにおけるリハビリテーションとその継続のためのソーシャルワークについて紹介し、ソーシャルワークのための新たな面談システムについても言及している。急性期病院におけるソーシャルワークは時間との闘いの日々である。その後の継続支援が途切れることなく、地域や後方支援病院にバトンが渡せるような支援体制の構築が望まれる。

回復期リハビリテーションにおけるソーシャルワーク 藤井由記代氏 1167

回復期リハビリテーション病棟入院料を算定できる疾患は、脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷等の発症または手術後、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節もしくはひざ関節の骨折または二肢以上の多発骨折の発症後または手術後の状態、外科手術または肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態、大腿骨、骨盤、脊椎、股関節または膝関節の神経、筋または靭帯損傷後の状態、股関節または膝関節置換術後の状態、など多岐にわたる。急性期からの効率的なバトンの受け取り、入院中の効果的な支援、生活期の各機関への効率的なバトン渡しなど、迅速な対応が求められるが、どれだけの生活課題を把握し支援できたかなど、支援の質も問われている。

医療療養型病院 小林紀子氏ら 1175

慢性期医療の分野では、慢性期医療が地域包括ケアの核となり、患者利用者に選ばれるサービスを提供し、機能の拡充を図るよう努めるといわれており、これは、慢性期医療に携わる者の課題と受け止めている。八王子保健生活協同組合城山病院では、ソーシャルワークの業務は、前方連携、後方連携、病床管理などを横断的にカバーしている。部門構成員が医療ソーシャルワーカー（MSW）のみであるがゆえの限界もあるが、一方で、入院する全患者にMSWの介入の機会があることが利点でもある。「医療や介護が必要になっても地域で暮らし続ける」ことを支える病院として、MSWの機能は大きくかわつ

ており、患者と家族が地域で困難を抱え続けて暮らすことを少しでも回避できるよう、地域の諸機関がそれぞれの機能を効果的に発揮し、地域全体で支えられるよう、MSWも積極的に参画していく必要がある。

緩和ケアとソーシャルワーク 宮田佳代子氏 …………… 1183

緩和ケアは診断時から必要に応じて行われるべきものであり、それにより療養生活が豊かなものになるように支えていくためのものである。心理社会的問題として、経済的問題、がん治療と仕事の両立、生活支援、家族支援などがある。緩和ケアは、あらゆる病期の各段階で、場を問わず受けることができるようになってきている。しかし、どの医療機関でも対応できるわけではなく、外来、入院、在宅などあらゆる場面を想定し、患者の希望に合わせて環境整備を進めていくことが望ましい。また、患者の社会的背景は、その人の人生を映し出しており、医療者側としては患者の抱える社会的背景や価値観を把握したうえでの支援が大切である。そのなかで、医療と生活をつなぐ専門職としての医療ソーシャルワーカーが担う役割は大きい。

小児専門病院におけるリハビリテーションとソーシャルワーク 佐藤 杏氏 …… 1191

日本の新生児死亡率は1,000人あたり0.9人と世界各国の中で最も低い水準である。また、小児医療はこの数十年で大幅に治療率を上げており、従来は救命困難だった子どもたちも救命できるようになり、高度医療依存児・長期入院児の増加など新たな課題が指摘されている。小児専門病院では、妊娠期から子どもと家族の生活を支え、子どもの成長発達と家族の受容にも寄り添う。本稿では、子どもが教育を受ける権利の保障や、障害者雇用率を上げるためのワークサポートプロジェクトについても紹介している。

| | |
|------|------------------------------------|
| お知らせ | 第3回日本理学療法哲学・倫理学研究会フォーラム …………… 1174 |
| | 第9回日本がんリハビリテーション研究会 …………… 1245 |